

資料5

地産エネルギー・グリーンツーリズムワーキンググループ 活動報告

第4回あきたスマートシティ・プロジェクト推進協議会

場所:秋田市環境部会議室

平成23年11月29日(火)

1. 本年度のWG活動報告と総括

活動報告

- 国の補助金を原資とした活動資金の確保
 - 総務省「緑の分権」、経済産業省「スマートコミュニティ構想普及支援事業」への申請
- 木質バイオマスエネルギーへの着目
 - 緑の分権:木質ペレットの普及促進
 - スマートコミュニティ:木質バイオマス発電事業の事業化検討
- 補助申請は両者とも非採択となる

総括

- スマートコミュニティ構想普及支援事業の結果
 - 全採択案件48件 → 各都道府県に平均1件
 - 東北地域11件のうち被災地域が8件 → 復興枠による配分
 - 予算枠2億5,000万円から1件あたり500万円程度の補助枠 → 当初予定の半額
- 補助要件に合わせ事業計画を立てるのではなく、事業計画にあった補助メニューを探すことが重要
- 本年度中に事業計画概要を立案した上で、関係各所(県、国)への相談を実施することが必要

2. 次年度の活動方針

基本方針

- 「秋田らしい」地産エネルギーの普及促進の調査を実施
- 自主予算を確保した上での活動資金の調達

活動方針

- 「秋田らしい」地産エネルギーとは何か
 - 豊富な天然資源の活用
 - 地域産業の活性化に資するエネルギー活用
 - 政策との整合性
- 次年度は木質バイオマスの活用に注力
 - 七曲臨空工業団地に大型製材所を建設(2012年7月稼動予定)
 - 年間原木消費量148,000m³
 - 端材の利活用

3. 木質バイオマスエネルギー活用の課題

- 燃料(チップ、ペレット)の安定供給
 - 需要に応じた量の供給
 - 安定した価格
 - 適宜必要量を確保できる供給体制
- 機器(ボイラー、ストーブ)の初期投資の低減
 - 機器価格の低減
 - リースによる初期費用低減
 - 環境負荷低減の市場価値化
- 利用者の利便性向上
 - 配送システムの構築
 - 焼却灰処理の簡便化

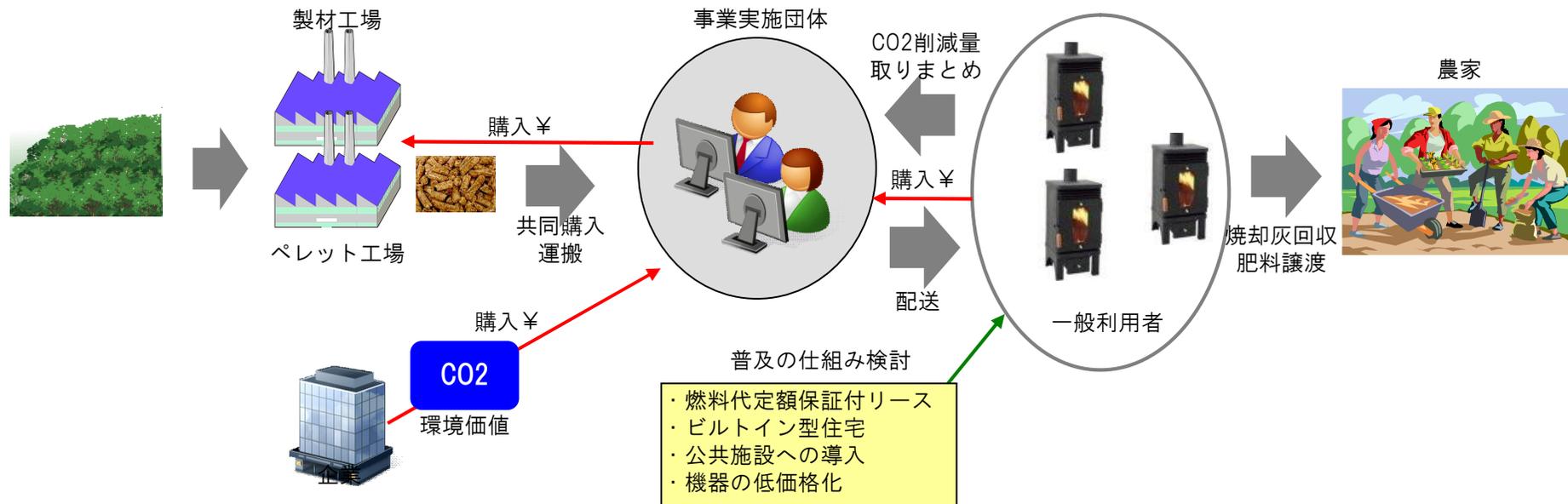
4. 来年度事業

事業概要

- 木質ペレットの購入→配送→焼却灰回収の供給体制の構築と実証による事業性の検証

調査項目

- 木質ペレットの販売コスト低減の可能性調査(共同購入、事業規模拡大 等)
- ペレットストーブ設置にかかる初期費用低減可能性調査(リース、ビルトイン住宅整備 等)
- 環境価値の売却可能性調査
- 購入、配送、焼却灰回収の一括した事業の事業性評価



5. グリーンツーリズム

当面の活動方針

- 「地産エネルギー・グリーンツーリズムWG」は、“エコ(環境)”をコンセプトとした新規性のあるツーリズムの実施・展開を図るため、当面、来年5月に公募が予定されている「食農観ビジネス等推進重点支援地域形成事業」(秋田県)の活用を目指し、検討を進める。
- スケジュール(予定)
 - 平成24年2月 検討状況報告(平成23年度第5回ASC協議会)
 - 4月 応募内容報告(平成24年度第1回ASC協議会)
 - 5月 「食農観ビジネス等推進重点支援地域形成事業」(秋田県)に応募
 - 7月 採否結果判明～事業実施へ

「食農観ビジネス等推進重点支援地域形成事業」概要

- 事業目的 地域の事業者等が連携して、食農観をはじめとする資源、地域の特色に焦点を当てた独自性、実現性の高いビジネスの創出、実践を支援する。
- 実施主体 観光事業者、食品事業者、農林水産業者、農林商工団体、市町村等
- 規模 1団体あたり年間500万円×3年間
- 募集時期 平成24年5月中旬(予定)
- 募集枠 2団体